

ボランティアだより

かすみがうら市

# 四季の里

第14号

平成31年2月18日

発行

発行 ————— かすみがうら市ボランティア連絡協議会

編集 ————— かすみがうら市ボランティア連絡協議会広報委員会

事務局 ————— かすみがうら市社会福祉協議会内 ☎029-898-2527



## 平成30年度ボランティア連絡協議会研修会

← この写真の記事は2ページにあります。



### 平成三十年度研修会に参加して

ボランティア連絡協議会副会長

生方 眞一

今年のボランティア研修会は、七月に役員会を開き研修内容の検討を行ないました。希望候補先を二つに絞り、予算や研修内容に問題がないかを事務局に調査を依頼した結果により決めさせて頂きました。

最初の研修先となったのは、小美玉市の六号線沿いにある「イトウ製菓」さんです。

パンの製造を開始したのは、一九五一年と古く、一九六八年に現在の地に工場を作り、一九八五年には第二工場が完成し、現在までに様々なお菓子が製造販売されています。従業員二〇〇名が、自動化された工場内で作業に従事しています。ここで初めてクッキーとビスケットの違いは製品の硬さの違いで、それはバター量の差であることを知りました。

次に、那珂湊の「おさかなセンター」で海の幸の豊富な昼食をいただき、又お土産を購入する時間を取りました。

この後、当初の目的地でありました「ひ

たち海浜公園」に向う予定でしたが、悪天候が予想された為、「めんたいパーク」に変更しました。他の団体も来ており大変にぎやかでした。この工場では、明太子になる工程を見学しました。  
この研修で、事前調査が大事であることを認識致しました。  
心配した雨にも降られず楽しく終える事ができました。



イトウ製菓工場職員の丁寧な説明



真剣な表情で説明を聞く会員の皆さん



# かすみがうら祭に参加して

霞ヶ浦地区

志士庫ボランティア 富山 洋子

十一月三日(土) 第一常陸野公園にて第十四回かすみがうら祭が開催されました。私達霞ヶ浦地区ボランティアも、バザーで参加しました。

各地区会員の善意の品物が沢山集まりましたので、皆で頑張ってお客様に声を掛けながら買っていただきました。

お客様の中には毎年楽しみにして来て下さる人も居り、お天気にも恵まれ大盛況でした。各家庭で眠っていた品物達が、別の人の手によって活かされて行くのは有難いですね。皆様の協力に感謝です。

\* \* \* \* \*

千代田地区

キャッチボイス 川西 廣明

平成三十年文化の日に行われた「かすみがうら祭」で、ボランティア連絡協議会の協力で行う恒例のバザー展に、社会福祉協議会傘下のボランティア団体キャッチボイスとして参加しました。

キャッチボイスは文字を音声にする(音訳)ことで難視者のために情報提供を行う団体で、市の広報の他、出版物の音声訳をお届けすることを約二十年間続けています。グループを起ち上げた方々が、今も先頭に立って、みんなを引っ張っている息の長いボランティア団体です。

バザーの出品物は、前日までに出品者の各ボランティア団体で値付けしてから会場に搬入されます。原則的にその価格で出品されるのですが「相場」からかけ離れた価格の場合は会場で売り子さん(他のボランティア)たちによって調整されます。

バザーに出品する物は、使用しなくなつたものや、余っているものでしょうが、なんでも良いというわけではありません。清潔であることや、本来の機能を十分に発揮できることが最低限の条件でしょう。そのうえで買手に「掘り出し物感」をもってもらえるようなものを出品したいですね。



かすみがうら祭(千代田地区)の様子



かすみがうら祭(霞ヶ浦地区)の様子



生徒と手話体験

山ゆり（手話） 阿久根 雅子

ろう者一名聴者三名の四人で子供ヘルパー派遣事業の一環で、霞ヶ浦北小学校へ行った時の話です。四年生の教室です。耳の聞こえない人と手話をするのが初めて、と言う生徒が大半でした。ろう者の表わす手話に目が輝いています。一緒に練習するうちにだんだん興に乗って来ました。初めての体験でも子供たちは覚えるのが早い、自分の名前を手で表わせる事が新鮮に感じるのでしょうか、一生懸命に覚えて表わそうとしてくれました。二時限目の時間はアツと言う間です。せっかく手話に触れた機会なので、ろう者の生活にも触れてみたいと思いつつも時間が足りません。耳が聞こえないと生活の中でどう支障があるのでしょうか。朝起きる時目覚ましが聞こえない、どうするの。玄関に人が来た時知る方法は。機器の目覚ましは発達発展で、ろう者の生活も以前には考えられない程便利になりました。しかし人と人の交流の中でこそ優しさは生かされるのではないのでしょうか。手話を通じて障がいのある人もない人も

共に仲良く生活して行けたらどんなに良いでしょう。子供達の純粋な目に、そんな事を感じながら、学校を後に帰路につきました。



外出行事支援に参加して

こぶし会（地域福祉） 星野 まさ子

特別養護老人ホーム「プルミエールひたち野2号館」恒例の外出行事に、支援ボランティアとして参加しました。

五月二十八日（月）は、あいにくの天候でしたが、「今日は屋内でお買物だから大丈夫ヨ」とのお年寄りの声に、こちらが楽しい気分になされました。

十時三十分に出発し、目的地のイオン

土浦へ向かいました。

イオン到着後は、フードコートで昼食でした。私が担当した方は、何を食べようかと少し迷いながらも、大好きなお肉セットを注文し、おいしそうにいただいています。食事の後は、各フロアーを回って買物をしたり、めずらしい物を見つけては「これいいね」などはしゃいでみたり、とても楽しい時間を過ごしました。十四時五十分、イオンを出発し、少々疲れた様子でしたが、2号館に無事到着、お年寄りの皆様から「ありがとう」「楽しかった」の言葉に、こちらが元気をいただいた気持ちでした。

これからも「お互い様」の言葉を胸に、また参加できたらと思っています。

ご一緒された方いつまでもお元気で!!



こぶし会外出行事支援の様子

## 志筑地区交流会

ひまわり会（配食サービス）吉田 幸子

ひまわり会は、平成四年三月一日に発足し、今年で二十六年になります。会員数は二十三名で、元気に活動しています。

主な事業は、一人暮らしのお年寄りに配る月一回の弁当作りです。そして最大の行事は、志筑地区社協交流会です。

今年も十一月二十九日、老人福祉センター「ふれあいの里」で開催されました。

交流会は、地区役員及び地区委員、志筑地区の八十歳以上の方とボランティアひまわり会の相互交流、親睦を図ることを目的として行われます。今回も八十三名の参加があり盛大に開催することができました。アトラクションでは、踊りの会による日本舞踊、ひまわり会はフラダンスと樹音（じゆね）の演奏を行いました。最後はのど自慢者のカラオケで二時間半の時間はアツという間に過ぎました。

参加者の方から「お料理おいしかったよ。」  
「今年も来られて楽しかったよ。」  
「また会いましょう。」の言葉にボランティア会員は元気をいただき、また頑張ろうと心新たにしております。

来年も、参加者の方々に喜んでいただけるよう、ひまわり会は頑張ります。



志筑地区社協交流会の様子

## ひよっこ研修

ひよっこ（おもちゃ図書館）田口 幸次

二〇一八年十一月二十七日（火）千葉県佐倉市に研修旅行に行きました。佐倉市は江戸時代には、十一万石の城下町として栄えてきました。現在の人口は十七万人余りです。

佐倉市では「国立歴史民俗博物館」「佐倉武家屋敷」「旧堀田邸」「佐倉順天堂記念館」を見学しました。

「国立歴史民俗博物館」は、日本の歴史と文化について誰もが容易に理解を深められるよう資料・復元模型等が展示されています。とても大量の資料が展示されており、丸一日かけても観切れないほどです。

「佐倉武家屋敷」は、上級・中級・下級武士の三軒の住宅を見学しました。三軒とも江戸時代後期のもので、当時の生活状況を知る事が出来ます。

「旧堀田邸」は、最後の佐倉藩主であった堀田正倫（ほったまさとも）が、明治二十三年（一八九〇）に設けた邸宅庭園で、平成十八年七月五日に国の重要文化財（建造物）に指定されています。元城主が設けた邸宅庭園だけに、とても品の良い邸宅庭園です。

「佐倉順天堂記念館」は、蘭医佐藤泰然が天保十四年（一八四三）に開いた蘭医学の塾兼診療所です。西洋医学による治療と同時に医学教育が行われ、佐藤尚中をはじめ明治医学界をリードする人々を輩出しました。なお佐藤尚中は順天堂大学の創始者です。

今回は駆足の研修でしたが、またの機会に「国立歴史民俗博物館」だけでも一日かけて、ゆっくり見学したいと思いました。

市民参加コーナー

みんなの広場

『子どもを守る母の会』を紹介します

広報委員 中島 由美子

子どもたちの健全な成長を願い、この地域にも意義のある会を、と立ち上がったお母さんたちによって作られました。

始まりは、公園で掃除をしながら、気になる子どもたちに声をかけたこと、と聞いています。その後、母親同士の親睦や情報交換を図る目的で、キャンペーンの他にも、講話、料理、スポーツ、視察研修など様々な行事を行い、今に至っています。一時期、私も代表を務めたことがあるので、この会には思い入れがあります。会の趣旨に賛同し、会員として協力してくださる方が増えることを願っています。

現在、会長としてこの会を率いている宮本さんに寄稿していただきました。是非ご一読ください。

\* \* \* \* \*

かすみがうら市子どもを守る母の会は、子ども達の健やかな成長を守るために、地

域と協力しながら活動している会です。

昭和五十八年から活動しており、今年で三十七年目を迎え、現在の会員は四十六名です。母の会発足当時は、青少年の非行が社会問題となり、シンナーや喫煙、飲酒などから子ども達を守る活動をしていました。現在も、神立駅にて非行防止キャンペーン、千代田シヨップピングモールにて地域安全運動キャンペーンを行っております。そして、子育てをしている親同士の交流を深め、子どものこと、学校のことなどを気軽に話せる会として、楽しく活動しております。

子ども達は、たくさんの人たちに見守られながら、愛情や社会性を学んでいきます。地域の皆様、どうぞ子ども達の健やかな成長を、温かく見守ってください。例えば、子ども達の下校時間に合わせて散歩や庭仕事をしていたけると大変ありがたいです。たくさんの方の目で、子ども達を不審者から守ることができます。子ども達は、将来私達の生活を担う大人となります。自分のできる事をやりながら、子どもからお年寄りで、安心して暮らせるといいと思います。

かすみがうら市子どもを守る母の会

会長 宮本 雪代

編集後記

広報委員長 佐久間 美津江

平成三十年度は、猛暑、水害、台風と日本中がいろいろな災害に見舞われた年でした。災害の少ない当地でも防災を、一人ひとりが真剣に考えねばなりません。

今号は特に私たちが少し心がける事により、社会が明るく元気になる記事が、いくつかあります。さまざまな視点から情報を収集し積極的に「次世代を考えた活動」をしなくてはならないと強く感じております。自分の信念をもって若い人を前に立て、後に回って支えましょう。

今年も「まず健康」で、平和で安心・安全な生活が、これからも続く事を、新しい元号に託していこうではありませんか。

